



バン格拉デシユに恋して

私たちにあまり馴染みのない南アジアの国、
バングラデシユを紹介します。

vol. 6



【途上国でのモノ作り②】

私の夢が、今二つの形になって目の前に存在しています。何度
もバングラデシユに渡り、染色を
繰り返しながら燃えるような
赤を基調とした美しい手織り
の布がようやく出来上がった
のは昨年12月でした。赤色は日
本とバングラデシユ国旗の共通
カラーで私の大好きな色です。
私の夢をサポートしてくれた
友人のモニジャはグラミン銀行
で融資を受け、現在洋裁店を
3軒経営する女性事業家です
が、私が彼女と初めて会った
時、彼女の家族は1日3度の食
事をすることも困難な状況で
した。バングラデシユには今も
教育を受けることが出来ない
貧しい女性や物乞いで生計を
立てている女性が沢山います。
少しのお金と機会があれば彼女

たちの多くは立派に自立が
来るとモニジャは断言します。

今回、私は彼女の協力で
「ROSEMARY de
BANGLADESH」という
バングラデシユ発のブランドを
立ち上げる事ができました。
スタッフの多くは学歴もない貧
しい女性達ですが、モニジャが
何か月も縫製のトレーニングを
行い、今ではみんなとても上手
にミシン掛けをしています。製
品には「希望」の願いを込めて
バングラデシユ伝統の編み込み
ハートを縫い付けました。私の
夢がバングラデシユの貧しい女
性達に少しだけ希望を与える
ことが出来たように思います。

注1 グラミン銀行は貧困女性だけを融資
対象としたバングラデシユの銀行で2006
年ノーベル平和賞を受賞しました。



「希望」を込めた
オープンハート

編み込みをしている女性

鶴田 素子さん

八代市のローズマリー紅茶店オーナー。50歳で大学院に再入学し、
開発経済学を専攻。途上国の貧困削減のためフェアトレードを推進する。

ご感想お待ちしております！

info@uki-pre.net